

震災への備えを十分に



平間 正治
(清風クラブ)

◆市長の震災対策への考え

問 震災対策の強化は、今や全国的な潮流となっている。6万7千市民の安全確保は市長の重要な責務であると思うが、震災対策への考えは。

答 地震列島であることを踏まえ、十分な備えをして出来る限りの減災に努めたい。

◆生きた震災対策づくり

問 震災対策をより現実的なものとするため、今回の被災地を視察し行政関係者や避難者の声を聴いて、これを生かすことが必要ではないか。

答 参考とするため、現地を訪れることを検討したい。

◆総合的な推進役の設置

問 各種の避難訓練やミニ防災組織の組織化をはじめ、啓発事業などやるべきことがたくさんある。これらを担当する「防災専門官」を置いて、積極的に進めるべきではないか。

答 防災対策を総合的に進めるために必要であり、設置に向け検討したい。

◆信州F・パワープロジェクトについて

問 発電事業が遅れているが、プラント建設に要する時間と30年度稼働は可能か。

答 プラント建設は約2年を要する。稼働については、30年度中にと聞いている。

要望 稼働が更に遅れることのないよう、木材の必要量確保と合わせ尽力してほしい。

◆特急あすさの停車実現を

問 現在、下り2本、上り1本が塩尻駅を通過している。利用者の利便性確保のため、停車実現に向けた取り組みは、実現に向け要望したい。



熊本市役所の罹災証明受付状況

第五次総重点事業と民間連携手法、本年度松くい虫対策について



村田 茂之
(市政同志会2015)

◆第五次総重点テーマ実行状況について

問 全国各自治体が総合計画、地方創生を策定する中、いかに実行力、実現力を高めスピーディに成果を創出していくかが問われる。民間のプロジェクト管理の視点から、補正予算時より3か月遅延しているがどう対応するか。

答 市議会9月定例会までには事業手法の検討結果も含め報告する。

問 民間と連携した事業手法は当初計画にない。またPFIなどはトラブル、収益悪化の弁償などリスク要素を加味した契約と継続した運用が求められるがどうか。

答 十分な検討をし議会にも提案していく。

◆本年度の松くい虫対応ー吉田地区での活動を経験して
問 今年度当市でも急拡散が心配だ。松本市と隣接する吉田地区でも市街地型の対策が必要で、被害、費用を勘案すると予防散布が重要であると

思うがどうか。

答 樹幹注入が季節を逸していることもあり初期段階では費用的にも予防散布が有効である。ただ効率的な高所噴霧が現在難しい状況である。

問 最小限の薬剤でのピンポイント散布のためにドローン活用が有効と考えるが、ドローン技術の実用化と導入は。

答 今後、関係課とも導入を含め研究する。

◆その他の質問事項

不登校の原因ともいわれる「起立性調節障害」について質問した。



松くい虫（左：センチュウ、右：カミキリ）
(画像提供：長野県総合林業センター)